資料渉猟余話

その150

飯田中学校、飯田高等学校の校友会誌について

吉澤　健

当センターが寄贈を受けている諸資料のうち、標題の学校の校友会誌の保管箱が3箱にもなったので、欠本や複数本を明確にし整理しようと試みた。その結果、次のことごとが判明してきた。その概略を記しておきたい。

一、発刊初年のこと、誌代のこと

この会誌第1号の発刊年は明治35年である。第1号は蔵本にない。第2号は書かれている発刊の願い、目的を参考にすると「本校訓育主旨に基き会友通信の機関に供し、ならびに詩藻練磨の便に資する」目的で発刊し、会員は本校職員及び生徒をもって組織し、会長は校長がこれに当たると規定している。

ちなみに誌名は『校友会雑誌』であるが、何号から、どのような理由で現在の名称になったか、変わった年の号がちょうど欠本に当たっているのでわからない。

また誌代値上げについても第3号で次のように訴えている。

年1回3月の発刊であるが、第3号は明治37年4月の発刊「目下戦時で（筆者注・日露戦争初年）それほど高価ではなかったと考えている。（〈参考〉明治39年新聞代月45銭「値段の風俗史下」朝日文庫）。

もっともこの誌代請求は次のように訴えているから、当然のことと考えられる。

「謹告、校外員諸君に謹告す、従来本雑誌は校外員諸君に限り無代価贈呈し来りし処昨年以来校外員諸君大に増加し尚ほ将来追々増加すべきに付き本雑誌より実費として郵税共すべて十五銭を請求致し度依て校外員諸君は本雑誌御落手あり次第右金額本会雑誌部宛にて御郵送ありたし」

二、所蔵本と欠本

2、3、4号あり。5、6、7、8、9、10、11、12号欠本。13、14、15号あり。16、17、18、19（2冊）、20、21、22、23、24（この号まで誌名『校友会雑誌』である）。25、26、27号欠本。28、29（2冊）、33（2冊）、35（3冊）、36（大禮奉祝記念号）、37号あり。次から欠本が続く。38、39、40、41、42、43、44号欠本。45号あり。46号 欠 本。47、48（2冊）、49号あり。50、51、52、53号欠本。54（昭和22年3月31日発刊は「復活記念号」と印刷された号で、会長島幸治先生の「復活記念号の発刊を祝して」と題する巻頭言に〝戦時中長い間発行出来なかった校友会誌の…〟とあり、校舎が軍事工場に使われ、生徒たちが作業にかり出された生活から、戦前のよき時代への復活は熱烈な願いであったことと想像される。55（2冊）。

寄贈された校友会雑誌・校友会誌

現在はどのような形で、学校の歩みを記録にとどめたり、所期の願い、目標の達成に資しているのであろうか。現在は何号まで累積させているのであろうか。これからも欠本を整え一校の歩みを明確にしていきたいものと念じているところである。

以上いろいろの内容を書き加えたので、わかりづらくなった。次に欠本の号のみ書くと次のようで24冊となる。

1、5、6、7、8、9、10、11、12、25、26、27、38、39、40、41、42、43、44、46、50、51、52、53

この中には、発刊できなかった号もあるのではないかと思ってもいる。こうした整理は農学校、商工業校、女子学校などについても実施する予定である。

（令和3・7・10現在）